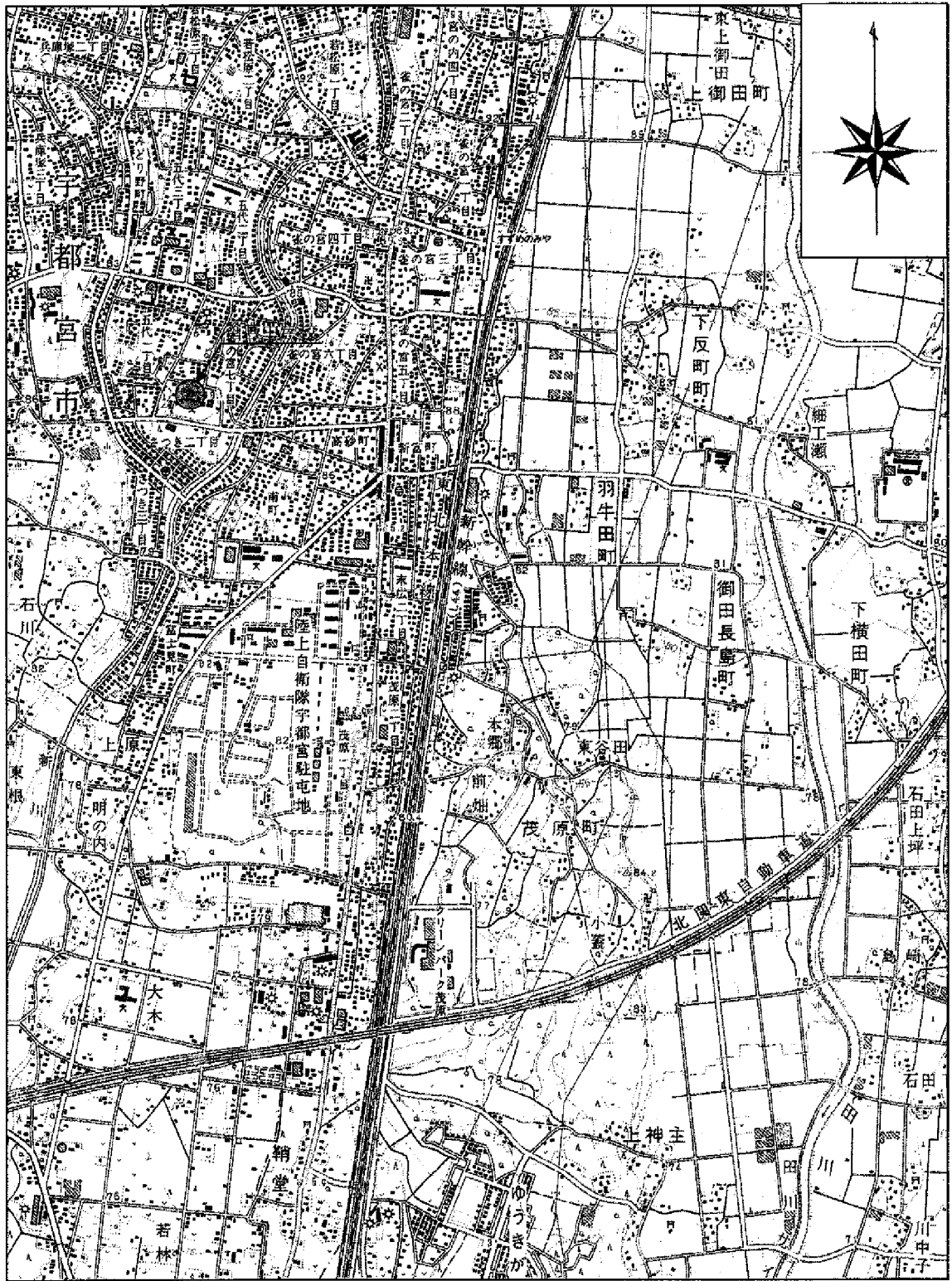


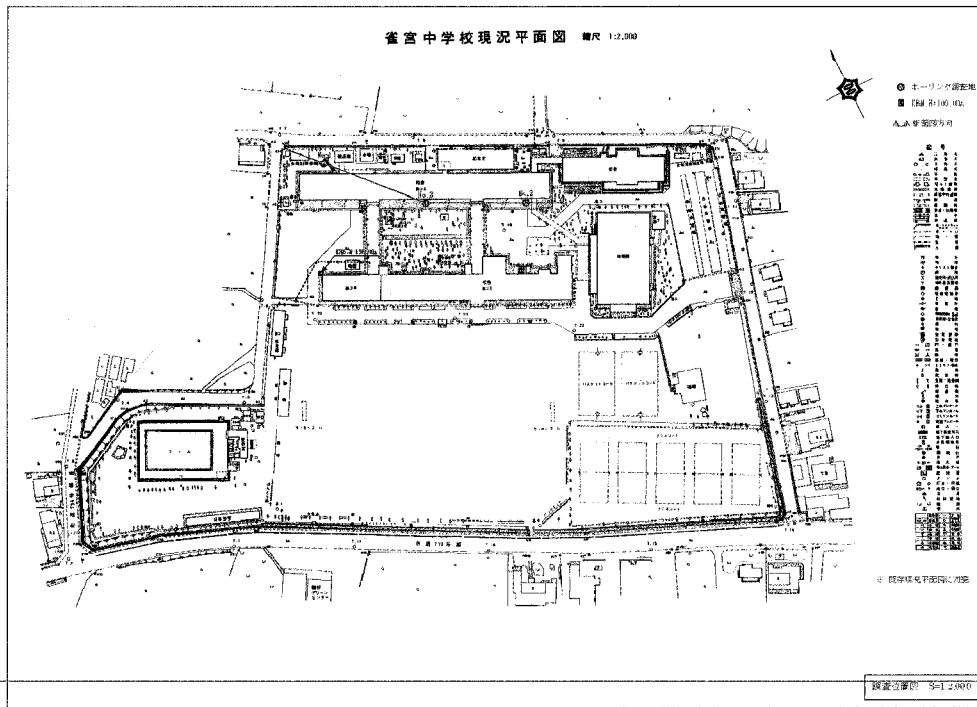
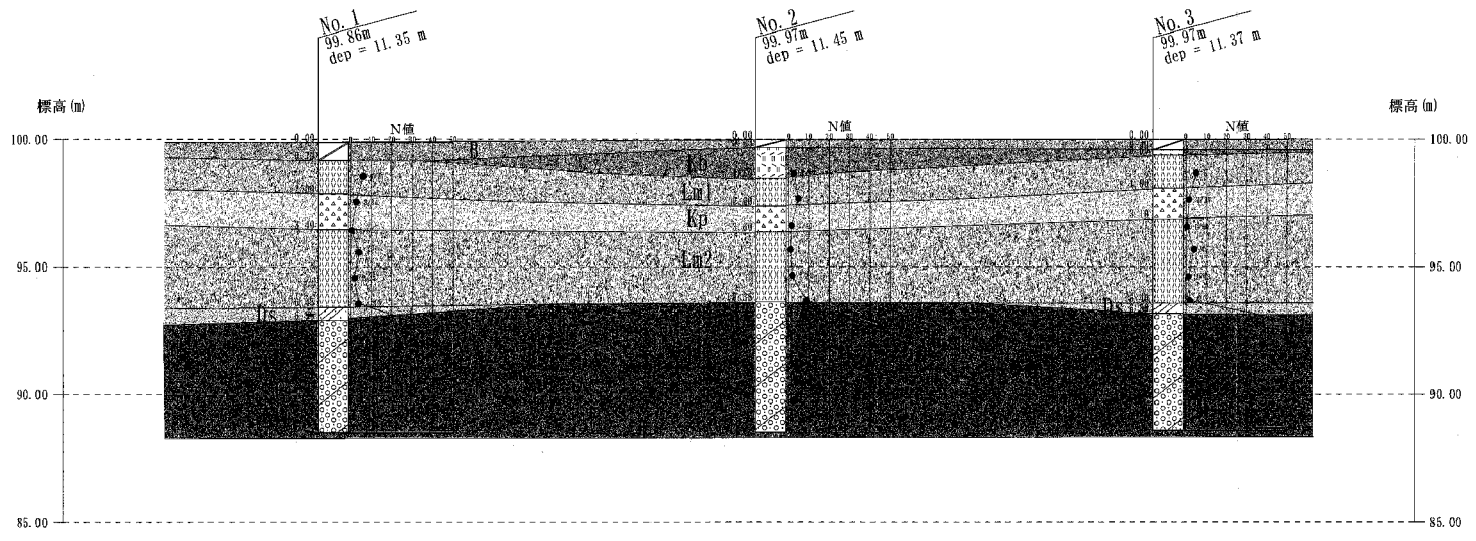
2. 調査位置図

案内図



● 調査地

縮尺 1:25,000 (国土地理院発行 1/2.5 万地形図「壬生・上三川」より抜粋)



凡 例

時代区分	地層区分	記号	土質名	層厚(m)	N値
新 生 代	盛 土 層	Dg	埋土	0.30~0.70	-
	黒ボク層		黒ボク	0.20~1.20	3
更 新 第 四 紀	ローム層 1	Lm1	ローム	1.10~1.30	5~6
	鹿沼軽石層	kp	軽石	1.00~1.40	2~3
	ローム層 2	Lm2	ローム	2.75~3.30	1~4
	洪積砂質土層	Ds	粘土質砂	0.40~0.50	
	洪積砂礫層		粘土混じり砂礫	4.40~5.10	39~50 以上

※ Dg層の層厚はボーリング最終標削深度までの確認層厚

図4.2 地層想定断面図 Sv=1:200 Sh=1:500

ボーリング柱状図

調査名 雀宮中学校校舎改築工事に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo. 1

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1		調査位置	宇都宮市雀の宮7丁目28番地16号			北緯	36° 29' 18.0"			
発注機関	宇都宮市役所		建設部	建築課		調査期間	平成 19年 8月 20日 ~ 19年 8月 21日				
調査業者名	芙蓉地質株式会社		主任技師			現代人	コ		ア		ボーリング責任者
孔口標高	99.86m	角	180° 上 90° 下 0°		方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種
総掘進長	11.35m	度	0°		向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°		試験機	KR-100H2		ハンマー落下用具
								エンジン	NFD-10		ポンプ
											半自動落下方式
											V6-B

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	層状 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進月日	
										深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	値						
1	99.16	0.70	0.70	埋土	黒褐			黒ボク主体である上部にφ20~40mm程度の礫点を含む。2.5m以深、焼却灰およびプラスチック片、ガラス片混じる。粘性、含水低位である。下部、1.9m以深より軽石混じる。	8/21 6.70	1.15	1/8	2/12	3/11	6/31					
2	97.86	1.30	2.00	ローム	褐灰	中位	軟らかい			1.46	1/15	1/11	1/8	3/31					
3	96.46	1.40	3.40	軽石	黄褐		軟らかい	洗滌軽石の2~4mm程度の粒状を呈す多孔質で含水高位である。		2.49	1/15	1/11	1/8	3/31					
4										3.15	1/15	1/11	1/8	3/31					
5				ローム	褐灰		軟らかい	非常に粘性、含水高位である。部分的に固結したところが認められるものの全体的には軟質である。下部に従い粘土質を呈す。		3.72	1/15	1/11	1/8	3/31					
6				粘土質	灰褐		緩い	砂は粒子均一な細砂を主体とする。火山灰質粘土混じりで含水やや高位である。		4.15	1/9	2/12	1/9	4/30					
7	93.41	3.05	6.45	粘土質	灰褐		緩い			4.45	1/25	1/6	2/31						
8	92.91	0.50	6.95	粘土混じり砂礫	灰褐		密な / 非常に密な	礫はφ20~50mm程度の円、垂円礫を主体とする。粘土の混在は少なく、φmax100mm前後と推定される。礫間は砂および粘土で充填されている。8.1~8.25m間は砂および粘土の混入が多い。		5.46	1/9	1/9	2/14	4/32					
9										6.15	1/9	1/9	2/14	4/32					
10										7.15	13	17	12	42/30					
11	88.51	4.40	11.35							7.45	10	14	15	39/30					
										8.15	19	24	7	50/26					
										9.15	15	16	11	42/30					
										9.41	10.15	15	16	11	42/30				
										10.45	24	26		50/20					
										11.15									
										11.35									

<凡例>

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図模様
土質材	礫 (G)	○ ○ ○ ○
	礫質土 (GP)	○ ○ ○ ○
	砂 (S)
	砂質土 (SP)
	シルト (M)	-----
	粘性土 (C)	
	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (V)	
高有機質土(腐植土) (Pt)		

第2分類

区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)
	シルト質 (M)	-----
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (V)	
	玉石混じり (-B)	○ ○ ○ ○
	砂礫混じり (-S)	○ ○ ○ ○
	シルト混じり (-M)	-----
	粘土混じり (-C)	
	有機質混じり (-O)	
	火山灰混じり (-V)	
	貝殻混じり (-Sk)	○ ○ ○ ○

第3分類

区分	分類名	図模様
岩石材	岩 (R)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (FR)	
特殊材料	玉石 (B)	○ ○ ○ ○
	碎石 (軽石) (Pw)	△ △ △ △
	シラス (Sl)	△ △ △ △
	スコリア (Sc)	△ △ △ △
	火山灰 (VA)	△ △ △ △
	ローム (Lr)	△ △ △ △
	黒ボク (Kb)	△ △ △ △
	マサ (Ms)	△ △ △ △
	表土 (Ss)	△ △ △ △
	腐植土 (Pt)	△ △ △ △
腐植物 (F)	△ △ △ △	

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ () による

備考

ボーリング柱状図

調査名 雀宮中学校校舎改築工事に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo. 2

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 2		調査位置	宇都宮市雀の宮7丁目28番地16号			北緯	36° 29' 17.0"				
発注機関	宇都宮市役所 建設部 建築課			調査期間	平成 19年 8月 18日 ~ 19年 8月 20日			東経	139° 51' 47.0"			
調査業者名	芙蓉地質株式会社		主任技師	現場代理人	コ	ア	ボーリング責任者					
孔口標高	99.97m	角	180° 上 90° 下	方	北0° 西180° 東90° 南	地盤勾配	鉛直0° 水平0°	使用機種	試錐機	KR-100H2	ハンマー落下用具	半自動落下方式
総掘進長	11.45m	度	0°	向				エンジン	NFD-10		ポンプ	V6-B

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	層深 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	採取番号	採取方法	室内試験	掘進月日
											深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	値						
99.67	0.30	0.30			埋土	暗灰				0.1mまでコンクリート 0.1~0.3m間は砂礫主体である										
98.47	1.28	1.50			黒ボク	黒褐	軟	粘性、含水低位である 有機質に富む			1.15	1	1	3						
97.37	1.10	2.60			ローム	褐灰	中位	粘性、含水中位 比較的均質である 2.5m以深より軽石が混じる			1.47	1	2	5						
96.37	1.00	3.60			軽石	黄褐	軟	堆積軽石 φ2~4mm程度の粒状を呈す 多硬質で含水高位である			2.15	1	2	5						
93.62	2.75	6.35			ローム	褐灰	非帯に軟らかい	粘性、含水高位で軟弱である 炭化物、スコリアが少量混じる 粘りや粘上質を呈す 5.8m以深、下部に従い砂質を帯びる			2.46	1	1	2						
88.52	5.10	11.45			粘土混じり砂礫	灰褐	密なり非常に密な	礫はφ20~50mm程度の円、面円礫 主体である 玉石の混在は少なく、φmax100mm 前後と推定される 隙間は砂および粘土で充填されて いる 8.1~8.25m間は砂および粘土の混 入が多い			3.15	1	1	2						
											3.55	1	1	1						
											4.15	1	1	1						
											4.45	1	1	1						
											5.15	1	1	2						
											5.47	1	1	2						
											6.15	1	1	7						
											6.45	1	1	5						
											7.15	12	13	20						
											7.45	9	15	22						
											8.15	9	15	22						
											8.45	19	14	17						
											9.15	20	18	12						
											9.44	20	18	12						
											10.15	13	15	17						
											10.42	13	15	17						
											11.15	13	15	17						
											11.45	13	15	17						

<凡例>

柱状図および土質区分

第1分類		
区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	○ ○ ○ ○
	礫質土 (GP)	○ ○ ○ ○
	砂 (S)	● ● ● ●
	砂質土 (SP)	● ● ● ●
	シルト (M)	— — — —
	粘粒土 (C)	— — — —
	有機質土 (O)	— — — —
火山灰質粘土 (V)	— — — —	
高有機質土 (有機土) (Pt)	— — — —	

第2分類		
区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	● ● ● ●
	シルト質 (M)	— — — —
	粘土質 (C)	— — — —
	有機質 (O)	— — — —
	火山灰質 (V)	— — — —
	玉石混じり (-B)	○ ● ● ●
	砂利、礫混じり (-G)	○ ● ● ●
	砂混じり (-S)	○ ● ● ●
	シルト混じり (-M)	○ — — —
	粘土混じり (-C)	○ — — —
有機質土混じり (-O)	○ — — —	
火山灰混じり (-V)	○ — — —	
貝殻混じり (-Sh)	○ ● ● ●	

第3分類		
区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (R)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (FR)	
	玉石 (B)	○ ○ ○ ○
特殊土材料	浮石 (軽石) (F)	○ ○ ○ ○
	シラス (SL)	— — — —
	スコリア (SC)	— — — —
	火山灰 (VA)	— — — —
	ローム (L)	— — — —
土質材料	黒ボク (K)	— — — —
	マサ (M)	— — — —
	黄土 (Su)	— — — —
堆積土 (FI)	— — — —	
崩壊物 (F)	— — — —	

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ () による

備考

ボーリング柱状図

調査名 雀宮中学校校舎改築工事に伴う地質調査業務委託

ボーリングNo. 3

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 3		調査位置	宇都宮市雀の宮7丁目28番地16号			北緯	36° 29' 16.0"								
発注機関	宇都宮市役所 建設部 建築課			調査期間	平成 19年 8月 16日 ~ 19年 8月 17日			東経	139° 51' 49.0"							
調査業者名	芙蓉地質株式会社		主任技師	現代理人	コ ア 鑑定者		ボーリング責任者									
孔口標高	99.97m	角			方			地盤勾配			使用機種	試錐機	KR-100H2	ハンマー落下用具	半自動落下方式	
総掘進長	11.37m	度			向			鉛直	90°		エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-B		

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進	
									深 (m)	0	10	20						30
99.57	0.40	0.40		黒ボク土	黒褐色	中位	軟	0.15mまでコンクリート以深は黒ボク主体で若干ローム混じる	1.15	2	1	2	5	N				
99.37	0.20	0.60							1.45	1	1	2	30					
98.07	1.30	1.90		ローム	褐色	中位	軟	0.3m付近にコンクリート片混じる	2.15	1	1	2	2	N				
96.87	1.20	3.10							2.54	1	1	2	38					
96.87	1.20	3.10		軽石	黄褐色	軟	脆	脆性軽石の混入による	3.15	1	1	1	1	N				
									3.65	1	1	1	30					
				ローム	褐色	中位	軟	上部、含水高位で軟弱である	4.15	2	1	1	4	N				
									4.45	1	1	1	30					
				ローム	褐色	中位	軟	粘性は中位~高位である	5.15	1	1	1	2	N				
									5.85	1	1	1	43					
93.57	3.30	6.40		粘土質砂	灰褐色	緩い	硬	砂は粒子均一な細砂を主体とする	6.15	1	1	1	2	N				
93.17	0.40	6.80							6.45	1	1	1	30					
				粘土混じり砂礫	灰褐色	非常に密な	硬	礫はφ20~50mm程度の円、亜円礫主体である	7.15	23	21	6	50	N				
									7.37	6	2	22						
				粘土混じり砂礫	灰褐色	非常に密な	硬	礫はφ20~50mm程度の円、亜円礫主体である	8.15	25	19	6	50	N				
									8.41	6	6	26						
				粘土混じり砂礫	灰褐色	非常に密な	硬	礫はφ20~50mm程度の円、亜円礫主体である	9.15	28	22	7	50	N				
									9.32	7	17							
				粘土混じり砂礫	灰褐色	非常に密な	硬	礫はφ20~50mm程度の円、亜円礫主体である	10.15	26	24	6	50	N				
									10.31	6	16							
				粘土混じり砂礫	灰褐色	非常に密な	硬	礫はφ20~50mm程度の円、亜円礫主体である	11.15	20	25	5	50	N				
									11.37	2	22							

<凡例>

柱状図および土質区分

第1分類		
区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	
	礫質土 (GP)	
	砂 (S)	
	砂質土 (SP)	
	シルト (M)	
	粘粒土 (C)	
	火山灰質粘土 (V)	
高有機質土(腐植土) (P)		

第2分類		
区分	分類名	図模様
補助記号	砂質 (S)	
	シルト質 (M)	
	粘土質 (C)	
	有機質 (O)	
	火山灰質 (V)	
	玉石混じり (-B)	
	砂利、礫混じり (-G)	
	砂混じり (-S)	
	シルト混じり (-M)	
	粘土混じり (-C)	
有機質土混じり (-O)		
火山灰混じり (-V)		
具散混じり (-Sh)		

第3分類		
区分	分類名	図模様
岩石材料	硬岩 (R2)	
	中硬岩 (R3)	
	軟岩、風化岩 (R4)	
	玉石 (B)	
特殊土材料	浮石(軽石) (Fw)	
	シラス (S1)	
	スコリア (Sc)	
	火山灰 (VA)	
	ローム (L)	
土材料	黒ボク (K)	
	マサ (M)	
	黄土 (Su)	
	堆土 (P)	
腐植物 (V)		

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ () による

備考